

## 研修報告書 No.11

県外病院初期臨床研修医

研修先：医療法人臼井会 田野病院

2019年8月26日から1ヶ月間、高知県東部の田野町にある医療法人臼井会 田野病院で研修させていただきましたのでご報告いたします。また、研修期間中には、馬路診療所での見学も行いました。

高知県は、病床数や医療従事者数が多いという統計上のデータがあるものの、その実は医療の中央集中が著しいことが特徴であり、田野町が属する安芸医療圏では病床数や医療従事者数の不足が叫ばれています。普段私が研修を行っている都市の大病院と、限られた物的・人的資源の中で地方の医療を支える田野病院、それぞれで医師に求められる役割は大きく異なっているということ、研修を通して肌で感じることができました。また、医師としての研修業務だけでなく、看護やリハビリ、社会調整、訪問医療など、普段の研修では携わらない他職種の業務も見学、参加させていただき、貴重な経験となりました。

私が来年度から外科専門医課程に進む予定ということもあり、都市部の大病院とは違う地域医療における外科医の役割を目の当たりにし、特に印象に残っています。以下にその考察を記します。

まず地域医療の患者層について述べたいと思います。都市部と比べて地方では高齢化の進行が著しく、今後人口の減少も急激に起こってくると予想されます。田野町を例にとると、現在の高齢化率は40%程度であり、総人口も30年後には現在の半分程度まで減少するという推計になっています。これにより、加齢に伴って罹患しやすくなる疾患は自ずと増え、有病率の低い疾患の絶対数は減っていくこととなります。また、一次産業従事者の割合が多いということも地域医療における患者層の特徴と言えます。全国の一次産業従事者割合として農業が3.5%、漁業が0.3%なのに対し、田野町周辺の市町村を見てみると、高いもので農業は安田町の19.9%、漁業は室戸市の3.7%と大きく上回っています。これにより、肉体労働による整形外科的な疾患の増加が起こります。食習慣・生活リズムの乱れも起こりやすく、また事業所の健康管理体制が行き届かないケースも多く、生活習慣病が増加します。

患者層以外の違いとして、先に述べたように、医療従事者の偏在化により地域医療では医師不足が喫緊の課題となっています。病院内や近隣に専門医がいない診療科も存在し、外科医の観点から考えると麻酔科医の不足は致命的なものであります。またそもそも、外科の専門医が一人しかいないということも多々あるように見受けられます。

一方で、臼井会がそうであるように、一つの事業グループが急性期病棟、回復期病棟、在宅医療事業所など手広く行なっているということや、医療従事者間や患者、家族とも顔見知りや相談や情報提供を行いやすいという地域医療の強みもあります。

以上を踏まえ、地域医療における外科医の特徴、役割というものを考察します。まずは幅広い診療が求められるということが挙げられます。専門領域の外科的部分だけでなく、内科的な部分も含んだ総合医としての役割が求められます。例えば、脳外科でしたら神経系総合医として、消化器外科でしたら消化器系総合医として時には内視鏡を自ら行う必要もあります。また、本来専門外の分野に関しても診療を行うこともあり、先述の有病率の高い生活習慣病の管理、また整形外科領域の関節注射や神経ブロックに関してもニーズが高く、行っている様子を目の当たりにしました。手術に関しては、有病率が低く患者数が少ない癌などの大手術は大病院のある医療圏へ集中させて、地域医療においては人的資源の面から、またそのスピード感のある連携を活かして、回復期、在宅へ迅速につなぐことのできる小手術が適していると考えられます。脳外科でいうと穿頭術やVP shunt 造設術、消化器外科も虫垂炎や胆嚢炎、ヘルニアなど一般的に術後早期に退院可能となる手術が挙げられます。

以上のように、医師、外科医という職業の多様性を実感し、将来の自分の姿を想像する良い研修となりました。ご指導いただいた先生方、病院、診療所のスタッフの皆様、高知医療再生機構の方々にこの場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。